

多文化関係学会設立総会 シンポジウム開かれる

6月22日、青山学院大学にて多文化関係学会の設立総会、シンポジウムが開かれ、予想を大幅に上回る総勢約140名が参加した。

1. 設立総会

設立総会では、久米昭元教授（立教大学）より設立の趣旨が報告され、全員一致で設立が可決された。

学会設立の趣旨を説明する久米昭元



説明を熱心に聞き入っている総会参加者



2. 記念シンポジウム

ひき続き行われた記念シンポジウム「多文化関係の研究と教育—新しいパラダイムを求めて—」では、パネリストがそれぞれの立場から専門の領域を新学会への豊富も含め報告した。（パネリストの発表の詳細は[こちら](#)参照）



(左から 司会；久米昭元、パネリスト；石井 敏、遠山 淳、林 吉郎、渡辺文夫、コメンテーター；御堂岡 潔)

続くフロアーからの質疑応答では、フロアーの参加者、パネリスト間のインタラクションが活発に行われ、新学会への豊富や期待、方向性について討論された。

「多様な分野の参加者がいるため、会員相互の間で聞く姿勢が大切。わかりやすい用語を使うことが必要ではないか」

「研究者間が刺激し合いながら、新たなパラダイムをつくりだすしかけが必要だろう」

「研究成果だけではなく、研究方法論についても議論していきたい」

など、様々な意見が出され、盛況のうちに終わった。

会場からあふれんばかりの参加者（急遽いすを追加）、熱気ムンムンのなか熱心な討論ありがとうございました。

3 . 懇親会



青学会館での懇親会。カメラマンの到着が遅れたので後半の写真しかなくて、すみません。もっとたくさんの方に参加いただきました。

文；徳井厚子、写真；杉本裕二